

16 平和施策・国際交流の推進			
30 平和・国際交流施策の推進			
主管課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課		
主管課長名	渡辺 賢治	電話番号	042-481-7541
関係課名 （組織順）	福祉総務課, 公民館, 図書館, 郷土博物館		
目的	対象	市民	
	意図	平和の尊さを理解し、後世に語り継いでいく 多様な文化が尊重される, 多文化共生を推進する	
施策の方向	市民一人一人が、国際交流を通じた相互の理解を深める中で、多様な文化が尊重され、平和に暮らすことができる共生のまちづくりを進めます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



**1 後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の振り返り — 取組実績（DO）**

**◆ 令和4年度における取組実績の振り返り**

施策の成果向上に向けた主な取組実績 【前期基本計画（令和5年度～令和8年度）の基本的取組毎に記載】	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
<p><b>（16-1 平和社会の推進）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・折り鶴プロジェクトや平和展、各公民館での平和フェスティバル、郷土博物館、中央図書館での平和に関する展示等、各種平和祈念事業を実施するとともに、平和に関する取組を掲載した情報誌「ピース・レターちょうふ」を発行し、戦争体験の継承や平和について考える機会の提供に取り組んだ。</li> <li>・平和首長会議を通じて、P×ビジョンに掲げた「平和文化の振興」を面的に広げるため、東京多摩地域におけるネットワーク形成に向けた検討を進めた。</li> <li>・広島市や長崎市をはじめとする「日本非核宣言自治体協議会」加入自治体との平和交流の推進を図った。</li> <li>・中学生をピースメッセンジャーとして長崎市に派遣するとともに、FC東京と民間事業者との連携の下、新たに小学生をピースメッセンジャージュニアとして広島市に派遣し、実際の被爆地の様子に触れ、戦争の悲惨さや平和の尊さを肌で学ぶ機会とすることができた。</li> <li>・若い世代に向けた平和祈念事業への参加促進に向けて、市が加盟する平和首長会議の取組と連動し、「調布っ子“平和なまち” 絵画コンテスト2021」を実施し、全応募作品を展示する作品展や応募作品をデザインに活用した啓発グッズ（クリアファイル・付箋）を作成した。</li> <li>・名誉市民・水木しげる氏の生誕100周年の節目となった令和4年度は、調布市平和祈念展「水木しげるが見た光景～紡がれる想いと言葉～」を開催し、戦記漫画を中心とした作品や水木氏が残された言葉の展示を行った。</li> </ul> <p><b>①横断的連携による施策の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平和祈念事業を実施している関係部署（文化生涯学習課、福祉総務課、公民館、郷土博物館、図書館）による平和事業連絡会を2回開催し、情報共有を行うとともに、事業間の連携や平和施策全体の効果的な展開に向けた意見交換を行った。</li> <li>・青少年ピースフォーラムにおいて、ピースメッセンジャーと全国の青少年の平和交流を行うことができた。</li> <li>■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」</li> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連イベントにおいて、オリンピックの理念に通じる平和と国際交流に関する取組を一体的に展開してきた。平和首長会議が実施する平和をテーマとした絵画コンテストに市独自の取組を加えた「調布っ子“平和なまち” 絵画コンテスト」作品展においても、応募作品と共に世界各国の子ども達の絵を展示するなど、若い世代に向けて、平和の尊さや大切さを多角的に考える機会の創出に努めた。</li> </ul> <p><b>②調布のまちの魅力発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピースメッセンジャー及びピースメッセンジャージュニアの取組において、FC東京や民間事業者との連携を図る中で、石川直宏クラブコミュニケーターに各種活動に参加いただき、調布の児童・生徒との交流により、多面的な影響力を生かした効果的な情報発信に協力いただき、取組の一層のPRにつなげることができた。</li> <li>・名誉市民である水木しげる氏の生誕100周年の機に、調布市平和祈念展を開催し、水木氏が残された作品を通して広く平和について考える機会を設けることができた。</li> </ul> <p><b>（16-2 国際交流の推進）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調布市国際交流協会（以下、「CIFA」）については、日本語学習支援や交流事業において、オンラインも取り入れながら、各種事業に取り組み、参加者同士の交流はもとより、日本文化や各国の文化の相互理解の促進を図った。</li> <li>・令和4年度は、外国人支援の一環として、CIFAとの連携の下、「外国人専門家相談会」を継続して開催したほか、市職員及び関連団体が合同で開催する「やさしい日本語」の活用促進に向けた研修会を引き続き開催した。</li> <li>・現下の状況を踏まえ、調布市国際交流協会や東京都との連携の下、ウクライナからの避難者への支援に取り組んだほか、ウクライナ文化への理解を深めるため、国際理解講座を開催し、多文化共生の推進に取り組んだ。</li> </ul>	

・2002 FIFA日韓ワールドカップで調布市がサウジアラビア王国代表チームのキャンプ地になったことから始まったサウジアラビア王国との交流が20周年を迎え、3年ぶりとなる「サウジアラビア文化展」を開催するとともに、2022 FIFAワールドカップ・カタール大会の開催時期に合わせて開催することで、サウジアラビア代表と日本代表の応援動画を市内の子ども達やサウジアラビアからの留学生等と一緒に作成しながら一層の交流を図った。

**①横断的連携による施策の推進**

・CIFAでは、日本語が不自由なために行政手続き等に影響がある外国人を支援するため、通訳・翻訳ボランティアの派遣を行うことで、外国人市民が地域で安心して暮らしていけるよう支援した。  
・在日外国人の抱える多岐にわたる悩みや生活相談に多言語で支援するため、CIFAと連携し、行政書士会調布支部をはじめとする専門家や通訳ボランティアの協力の下、「外国人専門家相談会」を継続して開催した。

**■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」**

・外国人だけでなく、高齢者、障害者、子ども等への情報提供手段としても効果的な「やさしい日本語」の普及・啓発及び活用促進に向け、市職員及び関連団体で合同の研修会を継続して実施した。

**②調布のまちの魅力発信**

・市は、2002年サッカーワールドカップ日韓大会を機に、様々な事業を通じて深めてきたサウジアラビア王国との交流の経緯を踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会においては、サウジアラビア王国のホストタウンとして登録されたことにより、オリンピック開催期間中に「サウジアラビア応援DAY」としてオンラインイベントを配信するなど、20年に及び交流を発展させてきた。

**◆（参考）令和元年度～令和3年度における施策の成果向上に向けた主な取組実績**

・平成27年度の市制施行60周年を契機として、広島へ中学生を派遣した“ピースメッセンジャー”の取組については、令和元年度より継続して実施する中、令和4年度の長崎への派遣までを累計し、述べ38人の生徒に参加いただきながら取り組んできた。その中で、新型コロナウイルスの影響により派遣をできなかった年度においては、青少年ピースフォーラムへのオンライン参加や市近隣の戦跡を巡るフィールドワークの実施など、現地への派遣に替わる平和学習の機会を設け、その学びや平和への想いを広く市民に発信することができるよう取り組みながら、市が目指す施策の方向に向けて成果向上に努めてきた。

・CIFAにおける国際交流事業や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ホストタウン事業について、これまで積み重ねてきた取組について、コロナ禍においてもオンラインの活用など工夫を凝らし、市民の国際交流及び多文化共生の促進を図ることができた。

・戦争についての話をしたり、聞いたりしたことがある市民の割合は、前年度から1.2ポイント上昇し、平和派遣事業を含む各種平和祈念事業についても、コロナ禍においても実施可能な方法を工夫しながら、市民に平和の尊さや命の大切さについて考える機会の創出を継続することができた。

・国際交流・多文化共生事業の参加者数は、新型コロナウイルスの影響により複数事業が中止又はオンライン開催となったことに伴い大幅に減少しているが、一方で、令和3年度から新たに外国人専門家相談会の実施による外国人支援の充実や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして「やさしい日本語」の普及啓発に取り組むなど、ニーズや社会状況を踏まえた国際交流事業を推進した。

**施策における2つのアクション(①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信)の視点に基づく主な取組実績**

・平和祈念事業を実施している関係部署(文化生涯学習課、福祉総務課、公民館、郷土博物館、図書館)による平和事業連絡会を2回開催し、情報共有を行うとともに、事業間の連携や平和施策全体の効果的な展開に向けた意見交換を行った。

・青少年ピースフォーラムにおいて、ピースメッセンジャーと全国の青少年の平和交流を行うことができた。

・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連イベントにおいて、オリンピックの理念に通じる平和と国際交流に関する取組を一体的に展開してきた。平和首長会議が実施する平和をテーマとした絵画コンテストに市独自の取組を加えた「調布子“平和なまち”絵画コンテスト」作品展においても、応募作品と共に世界各国の子ども達の絵を展示するなど、若い世代に向けて、平和の尊さや大切さを多角的に考える機会の創出に努めた。

・令和4年1月の「大人の集い」では、新成人を代表してスピーチした方が、この「平和派遣事業」に参加したことをきっかけとして、教師を志して勉強することになったと述べられ、事業の効果・重要性を発信することができた。

・CIFAでは、日本語が不自由なために行政手続き等が困難な外国人を支援するため、通訳・翻訳ボランティアの派遣を行い、外国人市民が地域で安心して暮らしていけるよう取り組んだ。

・在日外国人の抱える多岐にわたる悩みや生活相談に多言語で対応し、支援するため、CIFAと連携し、行政書士会調布支部をはじめとする専門家や通訳ボランティアの協力の下、「外国人専門家相談会」を開催した。

・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組として平成28年度から実施している小学生英語体験事業について、CIFAと連携し、外国人講師のほか、CIFA会員や通訳ボランティアと交流しながら実践的な英語を学ぶ機会とした。

・外国人だけでなく、高齢者、障害者、子ども等への情報提供手段としても効果的な「やさしい日本語」の普及・啓発及び活用促進のため、市職員及び関連団体で合同の研修会を開催した。

・ピースメッセンジャーの取組において、新たにFC東京との連携を図り、石川直宏クラブコミュニケーターに活動に参加いただき、子ども達との意見交換を行ったほか、多面的な影響力を生かした効果的な情報発信に協力いただいたことで取組の一層のPRにつながった。

・市は、2002年サッカーワールドカップ日韓大会を機に、様々な事業を通じて深めてきたサウジアラビア王国との交流の経緯を踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会においては、サウジアラビア王国のホストタウンとして登録され、オリンピック開催期間中に「サウジアラビア応援DAY」としてオンラインイベントを配信するなど、交流を発展させてきた。

### ◆まちづくり指標の現状把握

まちづくり指標	単位	実績値				目標値	指標の推移※
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度	令和4年度
1 戦争についての話をしたり、聞いたりしたことがある市民の割合	%	83.6	79.8	81.0	77.8	90.0	▼
2 国際交流・多文化共生事業の参加者数	人	2,986	338	762	1382	3,000	○

※令和4年度における指標の推移は、以下の区分により記号を記入

◎：目標値を達成 ○：目標値を未達成（前年度より向上した） ▼：目標値を未達成（前年度より低下した） ⇒：目標値を未達成（前年度と同じ）  
 —：数値未把握（調査未実施など）

### ◆指標でみる後期基本計画期間内（令和元年度～令和4年度）の達成状況

各指標の達成状況及び説明	
No.	指標名
説明（目標達成・未達成の要因、課題、今後の取組の方向等）	
1	戦争についての話をしたり、聞いたりしたことがある市民の割合
戦争体験者が年々少なくなっている中、令和4年度は平和祈念事業でのFC東京との連携や他自治体との平和交流など、より多くの市民に関心を持っていただけるよう効果的な情報発信に取り組んだ。	
2	国際交流・多文化共生事業の参加者数
新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、後期基本計画期間内における取組が制限を受けたことが実績値に反映したものと捉えている。	

#### 《参考》前期基本計画（令和5年度～令和8年度）における「まちづくり指標」

まちづくり指標	まちづくり指標の考え方	単位	基準値	目標値
身近な人と戦争や平和について話し合ったり、戦争中の話を聞いたりしたことがある市民の割合	平和に関する意識啓発を図る各種平和祈念事業の効果的な展開により、市民の大多数が戦争について考える機会を持っていることを目標とした。	%	77.8 令和4年度	90.0 令和8(2026)年度
国際交流・多文化共生事業の実施数	国際交流協会をはじめ、関係団体との連携により、国際交流や外国人支援などの取組の充実を図り、市民が多文化共生の推進に向けて、参加できる機会を増やすことを目標とした。	件	21 令和3年度	26 令和8(2026)年度
国際交流協会会員数	国際交流協会と連携して進めている外国人支援などの各種事業に関わっている外国人及び日本人会員を増加させることで、多文化共生の地域づくりを支える人材の育成を図る目標とした。	人	454 令和3年度	700 令和8(2026)年度

## 2 令和4年度の振り返り及び後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の取組状況 — 評価（CHECK）

### ◆施策の成果向上に向けて、令和4年度及び後期基本計画（令和元年度～令和4年度）に実施した取組に対する評価

総合評価 (令和4年度)	A	S：「実施した取組において顕著な取組成果が得られた。」 A：「実施した取組において予定した取組成果が得られた。」 B：「実施した取組において一定程度の取組成果が得られた。」 C：「実施した取組においてあまり成果が得られなかった。」 D：「実施した取組において成果が得られなかった。」
総合評価理由	令和4年度における施策の成果についての総括（総合評価の理由） <ul style="list-style-type: none"> <li>平和派遣事業については、中学生をピースメッセンジャーとして長崎市に派遣するとともに、FC東京と民間事業者との連携の下、新たに小学生をピースメッセンジャージュニアとして広島市に派遣し、実際の被爆地の様子に触れ、戦争の悲惨さや平和の尊さを肌で学ぶ機会としたほか、その学びや平和への想いを広く市民に発信し、施策の成果向上に向けて取り組んだ。</li> <li>CIFAにおける国際交流事業や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ホストタウン事業については、これまで積み重ねてきた取組をコロナ禍においてもオンラインを活用するなど、創意工夫を講じながら、国際交流の推進、多文化共生の促進に取り組むことができた。</li> </ul>	

<p>総括評価 (令和元年度から令和4年度)</p>	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p>	<p>S:「計画期間中に実施した取組において顕著な取組成果が得られた。」                  A:「計画期間中に実施した取組において予定した取組成果が得られた。」                  B:「計画期間中に実施した取組において一定程度の取組成果が得られた。」                  C:「計画期間中に実施した取組においてあまり取組成果が得られなかった。」                  D:「計画期間中に実施した取組において成果が得られなかった。」</p>
<p>総括評価理由</p>	<p>後期基本計画（令和元年度～令和4年度）における施策の成果についての総括（総括評価の理由）／今後に向けた課題・懸案事項</p> <p>（総括）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種平和祈念事業においては、コロナ禍においても、オンラインの活用や展示の実施など、創意工夫を講じながら取り組みながら、組織横断的に関係部署で情報共有を図り、市民に平和の尊さや命の大切さについて考える機会を創出した。</li> <li>・令和元年度は、市内中学生をピースメッセンジャーとして広島へ派遣するとともに、令和3年度には「日本非核宣言自治体協議会」に加入し、長崎が実施する「青少年ピースフォーラム」にピースメッセンジャーが参加したほか、令和4年度には、ピースメッセンジャーの長崎へ派遣するなど、被爆地をはじめとした他自治体との平和交流を推進することができた。</li> <li>・平成27年度の市制施行60周年を契機として、広島へ中学生を派遣した“ピースメッセンジャー”の取組については、令和元年度より継続して実施する中、令和4年度の長崎への派遣までを累計し、述べ38人の生徒に参加いただきながら取り組んできた。その中で、新型コロナウイルスの影響により派遣をできなかった年度においては、青少年ピースフォーラムへのオンライン参加や市近隣の戦跡を巡るフィールドワークを実施するなど、現地への派遣に替わる平和学習の機会を設け、その学びや平和への想いを広く市民に発信することができるよう取り組みながら、市が目指す施策の方向に向けて成果向上に努めた。</li> <li>・ラグビーワールドカップ2019™日本大会や東京2020大会の開催に向けた機運醸成の取組と連動して、CIFAと連携した小学生英語体験事業や中学生の平和派遣事業等の各種事業を通じ、幅広い年齢層へ向けて世界平和の実現と、その礎となる多文化共生の地域づくりに取り組むことができた。</li> <li>・国際交流事業においては、令和3年度に「国際交流平和都市宣言」30周年の節目の年として、CIFAやサウジアラビア王国大使館文化部、ピースメッセンジャー等の多様な主体と連携し、宣言の多言語化の取組をはじめ、平和祈念事業と国際交流事業の連携により、効果的な取組の普及啓発を図ることができた。</li> <li>・国際交流・多文化共生の推進に向けて、CIFAとの連携の下、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた小学生英語体験事業の実施や、外国人おもてなし語学ボランティアへの事業協力のほか、CIFAによる自主事業として、外国人会員を講師に招いた語学講座及び国際理解講座等に取り組み、東京2020大会開催を契機とした施策の推進を図った。</li> <li>・CIFAによる日本語学習支援や会員相互の交流事業のほか、外国人専門家相談会の実施や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして「やさしい日本語」の普及啓発に取り組むなど外国人支援に取り組み、多文化共生の推進につなげた。</li> </ul> <p>（課題・懸案事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被爆地への平和派遣事業や、戦争体験者の体験談を収録したDVDの活用促進などを通じて、より多くの市民に戦争や核兵器の悲惨さや、平和の尊さについて改めて考える機会を継続的に創出していく必要がある。</li> <li>・FC東京との連携により、市内小学生を対象とした平和派遣の継続実施を検討するほか、平和展等の事業の効果的な実施に向け、ホームタウン6市とも連携を図りながら、諸課題の整理等に取り組む必要がある。</li> <li>・CIFAや関係団体等と連携しながら、外国人が暮らしやすい環境づくりに向けて、日本語学習支援や各種相談支援等に引き続き取り組む必要がある。</li> <li>・CIFAと連携しながら、市内に避難されたウクライナ避難者への生活支援に取り組むとともに、市民がウクライナの生活や文化への理解を醸成する取組など、戦争をより身近に感じる中で平和の尊さ考える機会を創出しながら、多文化共生を推進する必要がある。</li> </ul>	

### 3 中長期的な施策の方向（2030年代を見据えた方向） — (ACTION)

#### ◆施策を取り巻く状況（国、東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等	①出入国管理及び難民認定法（入管法）改正（平成31年4月1日施行）による新しい在留資格「特定技能」の創設 ②政府によるウクライナ避難民の受入れの決定 ③高齢化による戦争体験者の減少	①④⑤CIFAや関係団体等と連携しながら、外国人が暮らしやすい環境づくりに向けて、日本語学習支援や相談支援等に引き続き取り組む必要がある。 ②⑥⑦⑨CIFAと連携しながら、市内に避難されたウクライナ避難者への生活支援に取り組むとともに、市民がウクライナの生活や文化への理解を醸成する取組など、戦争をより身近に感じる中で平和の尊さを考える機会を創出しながら、多文化共生を推進する。 ③被爆地への平和派遣事業や、戦争体験者の体験談を収録したDVDの活用促進などを通じて、より多くの市民に戦争や核兵器の悲惨さや、平和の尊さについて改めて考える機会を継続的に創出していく。 また、FC東京との連携により、市内小学生を対象とした平和派遣の継続実施を検討するほか、平和展等の事業の効果的な実施に向け、ホームタウン6市とも連携を図りながら、諸課題の整理等に取り組む。
東京都や近隣自治体の動向等	④東京都在住外国人人口の急増 ・59万1119人（令和5年4月1日現在） ・41万7442人（平成27年1月1日現在） ⑤東京都「未来の東京」戦略 version up 2022 策定（令和4年2月）において、「戦略6 ダイバーシティ・共生社会戦略」の中で、「日本人と外国人が仲良く暮らせるまち創出プロジェクト」を位置付け ⑥東京都は、ウクライナ避難民に対し、ワンストップ窓口の開設や一時滞在ホテルや都営住宅の提供等の支援を実施 ⑦ウクライナから避難された方への生活支援策として、支援金等の制度を設置 ⑧令和4年度は、26市中13市（ほか補助金交付型1市）が広島・長崎への市民の平和派遣事業を実施（FC東京ホームタウン6市の連携会議において、市の平和事業における連携をPRし、今後、事業連携に向けて関心を示す自治体がある）	
その他	⑨「調布市ウクライナ避難民生活支援一時金支給要綱」を制定（令和4年5月31日）	

#### ◆前期基本計画期間（令和5年度～令和8年度）における中長期的な取組の方向

<ul style="list-style-type: none"> <li>被爆地への平和派遣事業をはじめ、幅広い世代、とりわけ次代を担う子ども・若者が戦争や平和について考え、学ぶ機会の継続的な確保及びその成果を広く市民に還元するため、多様な主体と連携を図りながら各種平和祈念事業に取り組む。</li> <li>ウクライナ情勢等の現下の状況を踏まえ、CIFA や関係団体等と連携した国際理解や国際交流の促進、外国人支援の取組を通じた多文化共生のまちづくり推進する。</li> </ul>	
<b>施策の推進，成果向上の視点を踏まえた具体的な取組</b>	
デジタル技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和や国際交流に関する資料の保存や展示機会の充実の観点から、資料のデジタル技術を活用した保存や、映像配信等のデジタル技術を活用した事業展開について検討する。</li> <li>権利保護と利用の円滑化を踏まえた事業を推進する。</li> </ul>
共創のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>多角的な発信力を持つFC東京等との連携による事業を推進し、より広く市民が戦争・平和について関心を持ち、取組に参加する機会を提供することができるよう検討する。</li> <li>水木プロダクションとの連携により、名誉市民水木しげる氏の遺した作品を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さを発信する。</li> </ul>
脱炭素社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的な到達目標であるSDGsの観点から、国籍等に関わらず、地域における脱炭素社会の実現への理解の醸成に向けて検討する。</li> </ul>
フェーズフリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>国籍等に関わらず、相互理解を通じて、災害時の避難所運営等における様々なフェーズフリーの考えにつながるよう施策を推進する。</li> <li>多文化共生を推進する観点から、平時の施策の推進がフェーズフリーへとつながる考えについて、理解の醸成に向けた取組を検討する。</li> </ul>

施策16「平和施策・国際交流の推進」に関連する基本計画事業

前期※	計画コード	55	重点P	—			
	事務事業	平和祈念事業の実施				総合戦略	●
後期※	計画コード	95	重点P	—			
	事務事業	平和祈念事業の実施				総合戦略	●
所管部署 生活文化スポーツ部 文化生涯学習課 文化生涯学習係							
事業概要 「調布市非核平和都市宣言」(昭和58年9月27日 調布市議会)及び「調布市国際交流平和都市宣言」(平成2年3月23日 調布市)の理念に基づき、平和と人権の尊重を基本として、幅広い年齢層の市民に平和について考える機会を提供するため、各種平和事業を実施する。 市は、平成22年8月1日に平和市長会議(現在の平和首長会議)へ加盟及び令和3年4月1日に日本非核宣言自治体協議会に加入している。 市民の戦争体験の伝承に取り組むとともに、被爆地へ派遣した子どもたちの学びの成果を広く市民に還元する取組を推進する。							

※前期の欄には、前期基本計画(令和5年度～令和8年度)、後期の欄には後期基本計画(令和元年度～令和4年度)の内容を表記しています。

【PLAN▶DO▶CHECK】

活動内容(事業費ベース)	計画目標	令和4年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○平和の尊さを訴え、次代に引き継ぐための平和祈念事業の実施 ○庁内平和事業連絡会を活用し、幅広い平和事業を展開 ○戦争体験の継承	○各種平和祈念事業の実施 ・ピースレターちょうふ発行 ・原爆展開催 ・戦争体験映像記録作成  ○被爆地への派遣事業の実施	○各種平和事業の実施 ・ピースレターちょうふ発行 ・調布市平和展開催 ・折り鶴プロジェクト実施 ・絵画コンテスト・作品展開催 ○被爆地への派遣事業の実施 ・長崎への平和派遣 ・成果物等の巡回展示  ○水木しげるの生誕100周年・調布市平和祈念展「水木しげるが見た光景～紡がれる想いと言葉～」開催(新規)	○各種平和祈念事業の実施 ・ピースレターちょうふ発行 ・調布市平和展開催 ・折り鶴プロジェクト実施 ・絵画コンテスト・作品展開催 ○被爆地への派遣事業の実施 ・ピースメッセンジャーの長崎への平和派遣 ・ピースメッセンジャージュニアの広島への平和派遣 ・成果物等の巡回展示 ○水木しげるの生誕100周年記念・調布市平和祈念展「水木しげるが見た光景～紡がれる想いと言葉～」開催 ・ゲゲゲのサンドアート実施
事業費(千円)		3,353	9,109	9,231
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

令和4年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり	<input type="checkbox"/> 計画遅れ	<input type="checkbox"/> 計画前倒し	実績評価	◎
-----------	---	-------------------------------	--------------------------------	------	---

説明	市内の中学生11人を「ピースメッセンジャー2022」として長崎へ派遣し、戦争・平和について肌で学ぶ機会を設けたほか、FC東京との共催により市内の小学5・6年生5人を「ピースメッセンジャージュニア2022」として広島へ派遣した。ピースメッセンジャー及びピースメッセンジャージュニアは、市民から折り鶴を募集し、被爆地へ献納する折り鶴プロジェクト(回収数:1万160羽)で集まった折り鶴を被爆地へ献納した。その他、平和学習の成果として作成するメッセージボードの巡回展や様々な平和祈念事業への参加を通して、活動を通して得た学びや平和への想いを広く市民へ伝える取組を実施した。 また、戦争による被害の実相や次代を担う子どもたちの平和への想いなどを展示する調布市平和展(来場者数:350人)のほか、「調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト2022」を実施した。絵画コンテストの全応募作品35点を「調布市平和展」において展示し、受賞した10作品を平和首長会議の絵画コンテストへ応募した。併せて受賞作品をデザインに使用した普及啓発グッズ(クリアファイル・ふせん)を作成した。 水木しげるの生誕100周年記念事業の一環として、戦記漫画を中心に戦争・平和を考える機会となるようなパネルや言葉の展示を行う水木しげるの生誕100周年記念・調布市平和祈念展「水木しげるが見た光景～紡がれる想いと言葉～」(来場者:1万1585人)のほか、市の「ゲゲゲ」の開催期間にあわせて、布多天神社境内において、サンドアーティストの保坂俊彦氏によるサンドアート作品制作・展示及びサンドアート体験ワークショップを実施した。
----	--

【ACTION】

今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input checked="" type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善
今後の取組の方向	若い世代における効果的・効率的な啓発及び平和祈念事業への参加促進が課題であることから、ピースレター等を活用し、市内の平和祈念事業の関連情報を分かりやすく発信していくほか、ピースメッセンジャー事業や調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト等の機会を生かし、若い世代への意識啓発につなげていく。 また、派遣事業に参加した子どもたちが、その学びや平和への想いを継続的に発信できるよう、活躍の場づくりや支援に取り組む。 さらに、より多くの子どもたちが世界で起きている戦争を自分事として捉え、平和について関心を持つことができるよう、FC東京との連携による被爆地への平和派遣事業や、市が加盟する平和首長会議・日本非核宣言自治体協議会の取組との連携、また、各加盟自治体をはじめとする世界の恒久平和を希求する他自治体との平和交流を推進する。 併せて、国際理解講座等をはじめとする平和施策と国際交流施策とを有機的に連動させた取組を実施し、多文化共生の推進に取り組む。

施策16「平和施策・国際交流の推進」に関連する基本計画事業

前期※	計画コード	56	重点P	—			
	事務事業	国際交流の推進				総合戦略	●
後期※	計画コード	96	重点P	—			
	事務事業	国際交流の促進				総合戦略	●
所管部署 生活文化スポーツ部 文化生涯学習課 文化生涯学習係							
<b>事業概要</b> ①多様な文化への理解を深め、市民の国際感覚の醸成にも寄与できるよう国際交流協会などの関連団体と連携し、様々な国の歴史や文化を紹介する国際理解講座や、サウジアラビア王国との交流をはじめとする各種国際交流事業に取り組む。 ②国際交流協会や関係機関等と連携し、外国人のための専門家相談会や日本語学習支援等に継続的に取り組むとともに、「やさしい日本語」の更なる活用促進と併せて、災害時における情報発信の充実を図るなど、外国人の支援を推進する。 ③市民の手による国際交流活動を推進することにより、世界の様々な文化について、それぞれの人々との相互の認識と理解を深め、共に暮らしていける地域社会づくりに寄与するため、国際交流協会と連携し、多文化共生の地域づくりを進めるとともに、それを支える地域人材の確保及び活躍の場づくりに取り組む。							

※前期の欄には、前期基本計画（令和5年度～令和8年度）、後期の欄には後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の内容を表記しています。

**【PLAN▶DO▶CHECK】**

活動内容（事業費ベース）	計画目標	令和4年度		
		（計画）	（当初予算）	
			（決算・実績）	
○外国人が地域で生活していけるように日本語習得等を支援する ○外国人と日本人が共に暮らしていける地域社会づくりを進める ○市民の多様な文化への理解を促進する	○英語体験事業の実施 ○国際交流事業の推進	○国際交流事業の推進 ・CIFAとの連携 ・サウジアラビア文化展の実施 ○外国人専門家相談会の実施 ○やさしい日本語普及・啓発 ・職員向け研修の実施 ○調布市暮らしのガイド（多言語版）の作成（新規）	○国際交流事業の推進 ・CIFAとの連携 ・サウジアラビア文化展の実施 ○外国人専門家相談事業の実施 ○やさしい日本語普及・啓発 ・職員及び向け研修の実施 ○調布市暮らしのガイド（多言語版）の作成	○国際交流事業の推進 ・CIFAとの連携 ・サウジアラビア文化展の実施 ○外国人専門家相談事業の実施 ○やさしい日本語普及・啓発 ・職員及び向け研修の実施 ○調布市暮らしのガイド（多言語版）の作成
事業費（千円）	23,738	26,766	23,724	
債務負担行為等による用地取得費	0	0	0	

令和4年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり	<input type="checkbox"/> 計画遅れ	<input type="checkbox"/> 計画前倒し	実績評価	◎
-----------	---	-------------------------------	--------------------------------	------	---

説明	国際交流協会の日本語学習支援や交流事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じて、対面実施とオンライン実施を併用しながら、工夫して取り組んだ。 外国人支援の一環として国際交流協会と連携し、専門家や通訳ボランティアの協力の下、「外国人専門家相談会」を実施し、11組13人が参加した。 「やさしい日本語」の活用推進のため、市職員及び関連団体職員合同の研修会を実施した。研修会には、調布市国際交流協会の外国人会員の方にも参加してもらい、より実践的な研修及び交流の機会創出につながった。 ホストタウンであるサウジアラビア王国との交流については、交流20周年の節目の年で、サウジアラビア建国記念展示とサウジアラビア文化展を実施した。サウジアラビア文化展は、2022FIFAワールドカップ・カタール大会の開催時期に合わせて実施し、市内の子どもたちや調布市サウディアラビア友好会の協力によりサウジアラビア代表及び日本代表を応援する動画を作成する等、コロナ禍の制限がある中、交流20周年を盛り上げる取組を行った。 調布市暮らしのガイド（多言語版）を国際交流協会及びやさしい日本語アドバイザー（国際交流協会会員）の協力のもと作成し、令和5年2月に発行し、広く周知を図った。
----	---

**【ACTION】**

今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input checked="" type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善
今後の取組の方向	今後も関係機関や市民団体等と連携・協力しながら、外国人の生活支援や日本人との交流・共生を深めるとともに、サウジアラビア王国との交流を継続するなど、国際交流や国際理解につながる事業に取り組む、多文化共生の地域づくりを推進していく。 また、国際交流協会や関係機関等と連携し、外国人専門家相談会や日本語学習支援等に継続的に取り組むとともに、「やさしい日本語」の更なる活用促進と併せて、災害時における情報発信の充実を図るなど、外国人の支援を推進する。市内に在住する外国人への災害時における支援については、日頃から市内外国人への各種情報提供や生活支援を行う国際交流協会のネットワークを生かしながら、関係部署との横断的連携の下、検討を進める。